

1. 第五次宜野湾市総合計画前期基本計画の施策体系案

＜第四次宜野湾市総合計画 後期基本計画＞

基本目標	基本施策
1 市民と行政が協働するまち	(1) 協働のまちづくりと開かれた行政の推進 (2) 男女共同参画の推進 (3) 国際・国内交流の推進 (4) 効果的・効率的な行財政運営の推進
2 健康で、安心して住み続けられるまち	(1) 地域福祉の推進 (2) 子育て支援・子育て環境の充実 (3) 児童虐待・DVの防止と被害者支援の強化 (4) 障がい者（児）福祉の充実 (5) 高齢者介護・福祉の充実 (6) 生活困窮世帯への支援・労働福祉の推進 (7) 健康づくりの推進
3 文化を育み、心豊かな人を育てるまち	(1) 未来を担う人間力の育成 (2) 地域に開かれた学校づくりの推進 (3) 地域活動を通じた学びの充実と文化の継承
4 地域資源を活かした、活力あるまち	(1) 観光・リゾート産業の振興 (2) コンベンション支援機能の充実 (3) 地域商店街の活性化 (4) 商工業・情報通信産業の振興 (5) 企業立地と多様な働き方による就労の促進 (6) 都市農業・漁業の振興
5 安全・快適で、持続的発展が可能なまち	(1) 防災及び救急・消防体制の強化 (2) 交通安全・防犯対策の強化 (3) 環境保全と循環型社会の形成 (4) 公害・環境衛生対策の推進 (5) 快適な生活環境の整備 (6) 交通ネットワークの整備 (7) 上・下水道の整備 (8) 公園・緑地及び墓園等の整備
6 平和をつなぎ、未来へ発展するまち	(1) 基地問題への対応 (2) 基地跡地利用の推進 (3) 平和行政の推進

変更の観点

市地域ビジョンや基本構想を踏まえ、「子育て」と「教育」の施策を統合して基本目標2とするとともに、「健康・福祉」を基本目標3としている。

＜第五次宜野湾市総合計画 前期基本計画（案）＞

基本目標	基本施策
1 協働の推進による持続可能なまち	(1) 協働のまちづくりと開かれた行政の推進 (2) 男女共同参画の推進 (3) 国際・国内交流の推進 (4) 効果的・効率的な行財政運営の推進
2 こどもたちが安心して、心豊かに成長できるまち	(1) 子育て支援・子育て環境の充実 (2) だれ一人取り残さない支援体制の構築 (3) 未来を担う人間力の育成 (4) 地域に開かれた学校づくりの推進 (5) 地域活動を通じた学びの充実と文化の継承
3 いつまでも健やかに生き生きと暮らせるまち	(1) 健康づくりの推進 (2) 地域福祉の推進 (3) 障がい者福祉 の充実 (4) 高齢者介護・福祉の充実 (5) 生活困窮世帯への支援・労働福祉の推進
4 宜野湾の特性を活かした賑わいと活力のあるまち	(1) 観光・リゾート産業の振興 (2) コンベンション支援機能の充実 (3) 地域商店街（ 通り会 ）の活性化 (4) 商工業・情報通信産業の振興 (5) 企業立地と多様な働き方による就労の促進 (6) 都市農業・漁業の振興
5 すべての人が安全・安心で快適に暮らせるまち	(1) 防災及び救急・消防体制の強化 (2) 交通安全・防犯対策の強化 (3) 環境保全と循環型社会の形成 (4) 公害・環境衛生対策の推進 (5) 快適な生活環境の整備 (6) 交通ネットワークの整備 (7) 上・下水道の整備 (8) 公園・緑地及び墓園等の整備
6 平和をつなぎ、未来へ発展するまち	(1) 基地問題への対応 (2) 基地跡地利用の推進 (3) 平和行政の推進

※黄色蛍光ペン…新たな視点・観点 赤字…表現変更

基本施策名について

現在、担当課と調整・検討中であるため、次回の振興計画審議会までに名称等が変更となる可能性があります。

2. 第三期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策体系案

■宜野湾市人口ビジョン 2024 の概要

- ・ 老年人口が比較的少なく、生産年齢人口が多い釣り鐘型
- ・ 老年人口は増加傾向、生産年齢人口は横ばい、年少人口は減少傾向で推移しており、少子高齢化が緩やかに進行
- ・ 自然動態は、出生数はほぼ横ばいで推移しているが、死亡数は緩やかな増加傾向
- ・ 自然増加数は減少傾向にあり、特に 2016 年以降、その傾向が加速
- ・ 合計特殊出生率は 1.82 で全国平均より高いものの、年少人口の減少、晩婚化と未婚化が進行
- ・ 仮定値による将来人口推計を見ると、2035 年を境に総人口が減少に転じ、少子高齢化も進行する見込み

■市民の意識・認識、土地利用、デジタル施策の方向性

- ・ 「子育て支援・子育て環境の充実」に対する重要度の認識が最も高く、教育関連施策への認識も高い
- ・ 老年人口が増加を続ける中でも生産年齢人口が比較的多い本市においては、高齢者のみならず働き手となる世代の健康づくりが重要であるが、市民の「健康づくりの推進」に対する認識は高くない
- ・ 市域のほぼすべてが市街化区域で、人口密度が約 70 人/ha と高い
- ・ 西普天間住宅跡地の開発は進んでおり、琉球大学病院及び同医学部を中心に令和 9 年度まで区画整理等を実施。しかしながら、外部からの転入促進・産業誘致等に十分な面積の用地確保は難しい状況
- ・ 宜野湾市 DX 推進計画（令和 6 年 3 月）に基づき、市民生活、行政経営及び地域振興のデジタルファーストに取り組む
- ・ 「健康・医療」など市民のデジタル化を期待する分野と本市を特徴づけるポテンシャル（沖縄健康医療拠点、学園都市など）を掛け合わせたスマートシティのあり方を検討

■宜野湾市の目指すべき将来の方向性（地域ビジョン）

デジタル技術も活用して、子育て支援と子育て環境、教育環境の充実を図るとともに、沖縄健康医療拠点の形成により、全ての市民が健康になれるまちをめざす。

<子育て支援と子育て環境、教育環境の充実>

子育て支援と子育て環境の充実、教育環境の充実等により、子どもたちが安心して、心豊かに成長できるまちをめざす。

<健康づくりの推進>

琉球大学や企業等と連携した沖縄健康医療拠点の形成により、高齢者や働き手世代を含む全ての市民が健康になれる取り組みを推進し、市民の健康への認識を高め、健康行動を促すことにより誰もが健康で住み続けられるまちをめざす。

※地域ビジョンのほか、国や県の総合戦略、宜野湾市 DX 推進計画等も勘案



